

# 早期水稲「コシヒカリ」における高密度育苗技術の評価

早期水稲「コシヒカリ」の高密度育苗は、育苗経費を大幅に削減できます。

## 背景・目的

- 高密度育苗は、使用苗箱数を削減できる省力・低コスト技術として全国的に普及拡大中です。
- 慣行苗に比べ株が小さく軟弱気味となる傾向や、浮苗、転び苗による欠株が生じやすい点があるため、移植時期が早く初期生育の良否が収量に影響しやすい早期水稲「コシヒカリ」で検討しました。

## 成果の内容

- 大きな欠株もなく、収量、品質は慣行苗（播種量150g/箱）を使用した場合と同等です。
- 播種量を250g/箱とする高密度育苗と専用移植機の利用により、苗箱数を4～5割削減できます。

(表)：苗削減率、欠株率、収量、品質調査結果

播種量 (g/箱)	栽植密度 (株/坪)	苗箱削減率 (%)	欠株率 (%)	収量比 (%)	農産物検査
150 慣	70 慣	-	2.2	100	1等
250	70	40	0.9	94	1等
250	60	48	3.2	101	1等
250	50	56	2.3	97	1等

※ 2力年平均の値

※ 県主要農産物等栽培基準の目標値：欠株率5%以下



(写真)：播種後の様子  
(左 150g、右 250g/箱)

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 苗箱数を減らせることで、育苗経費を3～5割削減できます。

(表)：早期水稲「コシヒカリ」高密度育苗の育苗経費試算結果

播種量 (g/箱)	栽植密度 (株/坪)	育苗経費削減率 (%)
150 慣	70 慣	-
250	70	31
250	60	40
250	50	50

※ 2力年平均の値



(写真)：高密度苗対応移植機

- 普及対象地域・面積 早期水稲栽培地域（中部、南那珂、児湯）・80ha

## 留意点

- 浮苗、転び苗の原因になることから、代かきは丁寧に行うとともに移植時に深水にならないよう注意し、急な入水は避けます。
- 早期水稲での極端な疎植は、初期生育での莖数確保が難しくなる可能性があるため留意します。

関連研究成果カード：2021年度後期 番号1、関連事業名：大規模経営体に向けた超省力稲作体系の確立(県単)  
研究期間：2019～2020年度